

歴史人物誌

このコーナーでは、町にゆかりのある歴史人物とその結び付きなどをシリーズで紹介しています。執筆者は山田史談会長の佐藤仁志さん（豊間根・72）です。

きな影響を受けた。

明治27年3月、軍治は27歳の若さで県議会議員に当選。しかし、日清戦争が起これり同年9月20日に召集令状を受け、清国盛京省で陸軍輜重兵（前線に輸送・補給する軍需品を扱う役割）二等軍曹として従軍した。軍役を終えた軍治は明治

村・山田町・織笠村・船越村）の流失家屋1008戸、死者数2655人、負傷者数1452人（山田町津波誌）を数える大惨事であった。軍治はいち早く豊間根から人夫125人を率い、2日間にわたって大沢村と山田町で救助救済活動に尽力、その後も救済活動に努めた。

29年5月に帰郷、翌6月15日（陰暦5月5日）に三陸大津波が襲来した。山田地方（大沢

明治30年3月、軍治は補欠選挙で豊間根村議会議員に当選、32年9月県議会議員、34年村議会議員（35年軍治は利男と改名）、

村政・郡政・県政に尽力した

木村利男

軍治（利男）は明治元年9月、豊間根村木戸口に生まれた。明治16年に16歳で盛岡に出、津軽石村出身の漢学者山崎鯨山の集義塾において漢学を修めた。帰郷後の明治19年ごろ、桐ヶ窪信五郎（29歳、東閉伊郡飯岡村外四ヶ村戸長役場書役で自由民権運動家、後明治22年大



日清戦争から帰って間もなくの軍治（利男）の写真（明治30年撮影、当時30歳）

め、6期にわたり郡政に努めた。明治31年九戸郡宇部村出身の学者で政治家小田為綱の思想に共鳴、自由民権運動家として為綱を衆議院に送るべく下閉伊郡の同士に働き掛け、為綱当選の原動力となった。利男は昭和2年に豊間根村村長に就任、地域課題の解決に努めたが任期中の6年に体調を崩し同年4月10日、63歳の生涯を終えた。村政、郡政、県政と地方政治に尽力した37年であった。

町長室から

今年の町消防演習は小雨が降り続き、大変寒い天候の中で開催されました。雨が強い場合は体育館に会場を変更することにしていましたが、それほど雨ではなく、しかし閉会まで晴れることはありませんでした。終始雨の中での演習は私の就任以来初めてですし、佐々木団長の長い経験の中でも雨で会場変更をしたのは過去に一回だけで、後は天候には恵まれていたとのことでした。団員の皆さん寒い中本当にご苦労さまでした▼今年は20人の新入団員に辞令が交付されました。近年多くの分団の定員が充足されない状況が続いており、この傾向は全国的なものであることから対策が急がれています。こうした中で新たに町民の生命財産を守る崇高な任務に就かれる彼らに心からの感謝を込めて拍手を送りました。また、小隊、中隊訓練には女性の参加もありました。女性消防団員も募集しています。

山田町長 沼崎喜一